

# ディスポーザブル生検トレパン (KAI) を用いた各種の皮膚外科適用例

前田 学

医療法人新生会 八幡病院 皮膚科

## A Punch (Trepan) Biopsy Technique for Various Dermatological Diseases

Manabu MAEDA, MD & Ph D

Department of Dermatology, Hachiman Hospital, 278 Sakuramachi, Hachiman-cho, Gujo-shi, Gifu, 501-4228, Japan

はじめに

従来より皮膚生検にはメス刃法やトレパン法、ニードル法など各種の施行方法が試みられてきた。なかでもトレパン (ディスポパンチ) は病理組織の挫滅の少なさと簡便さゆえに多用されてきた。筆者はこの数十年、皮膚生検のみならず、各種の皮膚小外科的な応用にこのトレパン器具を多用し、各種の工夫や応用ができることがわかった。そこで、これまでの経験を踏まえ、使用成績を紹介すると共に、そのノウハウやコツについて言及する。

### <従来の皮膚生検使用方法>

比較的浅い病変には従来型のトレパンを使用し、適切な径を選択すること (図1)。なお、真皮下層から脂肪織に及ぶ結節性紅斑や脂肪織炎にはロング型トレパンを使用<sup>1)</sup>するとよい。さらに、組織培養も同時に並行して行う場合には中央部のトレパンの片方ないし両端を三日月状に削ぐように取り、メスなどで細片化して検体に用いるとよい。穴が長楕円形となり縫合しやすい利点がある。

### <簡易小外科的応用>

#### 1) メス刃法に代わる切開排膿

感染性粉瘤や皮下膿瘍の切開には従来よりメス刃が用いられてきた。しかしながら、単なる小切開では排膿後のタンポン装着などの処置に難儀することが多い。一方、トレパンで丸く穴を開けると容易に内容物を排出することが可能で、かつ自然閉鎖も予防できる利点がある (図2)。



図1 通常型トレパンの使用法  
垂直に長軸がぶれないように螺旋状に回転させることが肝要。

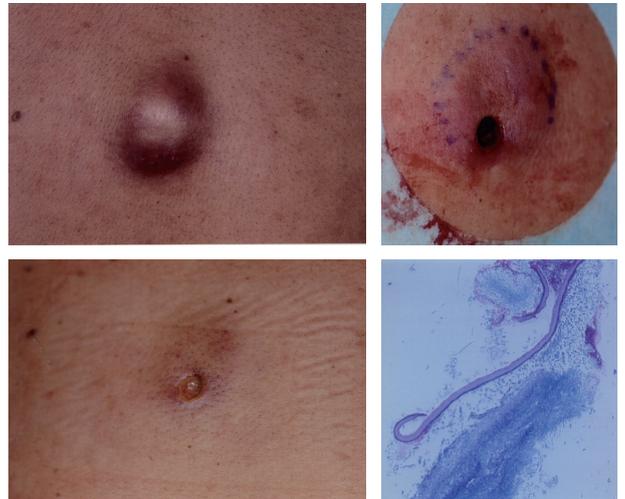


図2 感染性粉瘤に対する使用方法  
径6~8mmのトレパンを用いて、内容物を排出させ、数日ヨードホルムガーゼ充填を施行後、アクロマイシン軟膏に変更。術後8日目にはほぼ死腔はふさがっている。



生検トレパン

- 特殊刃先仕上げにより、切れ味が優れています
- シームレス構造の為、切り残しなく切除されます
- 広範囲のサイズを取り揃えています
- ハンドルにサイズが浮き彫りされています



適用

- 皮膚科治療
- 皮膚科組織検査

製造販売元

カイ インダストリーズ株式会社  
医療器事業本部 国内営業部

〒501-3992 岐阜県関市小屋名1110

Phone (0575)28-6600 Fax (0575)28-6611

<https://www.kaimedical.jp/>

## 2) 腫瘍切除

### a) 隆起性腫瘍

比較的小型の隆起性腫瘍ではメスで紡錘形に切開するよりも簡便で、かつ、正常皮膚を余分に切り取らずに済む。たとえば、上皮性腫瘍、皮角、老人性疣贅などが適応でサイズの径を選択すること。

### b) 皮下腫瘍ないし結節、嚢腫

臍抜き法の応用として、表皮嚢腫には極めて有用で、特に顔面(頬部)などには切開線を短くでき、出血も少なく、縫合する手間も省略できる利点<sup>2)</sup>がある(図3)。かつ、美容的な面からも勧められる。その他の疾患の応用としては石灰化上皮腫がある。小さなトレパンの穴から腫瘍を細分化して取り出し、内部を十分に洗浄し、ルーペで残りの石灰片を丁寧に取り除けば再燃はほとんどない。とくに露出部には適している(図4)。その他、脂肪腫(図5)や混入した異物摘出(図6)およびマダニ刺咬症<sup>3)</sup>やグロームス腫瘍<sup>4)</sup>など応用範囲が広い。

ただし、皮下のものは手探り状態の事が多く、十分に切り切れない場合には再燃する可能性もある。しかし、切開傷が小さい点は美容的にもQOLが向上する。



図3 表皮嚢腫(アテローマ)に対する使用方法  
嚢腫の1/3~1/4程度の径のトレパンで臍部をくりぬき、その穴から嚢腫壁にそってクーパーを差し込み、180度回転させると、上手に剥離可能。

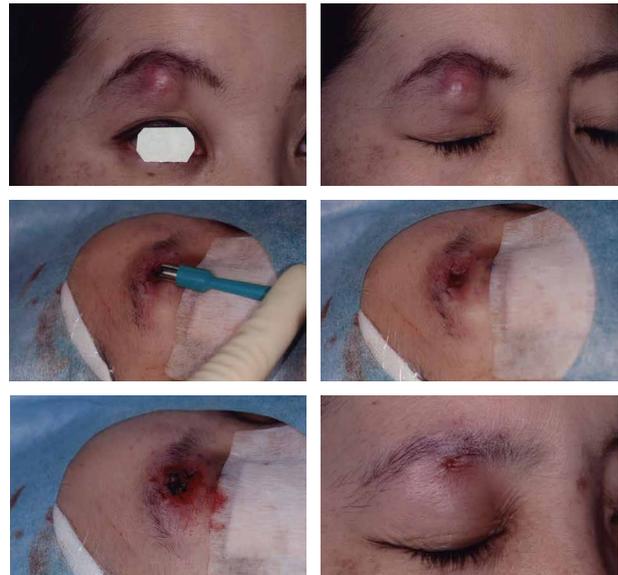


図4 石灰化上皮腫に対する使用方法  
トレパン穴から腫瘍巣を細分化して取り出し、十分に洗浄、ルーペで残存を確認することが肝要。

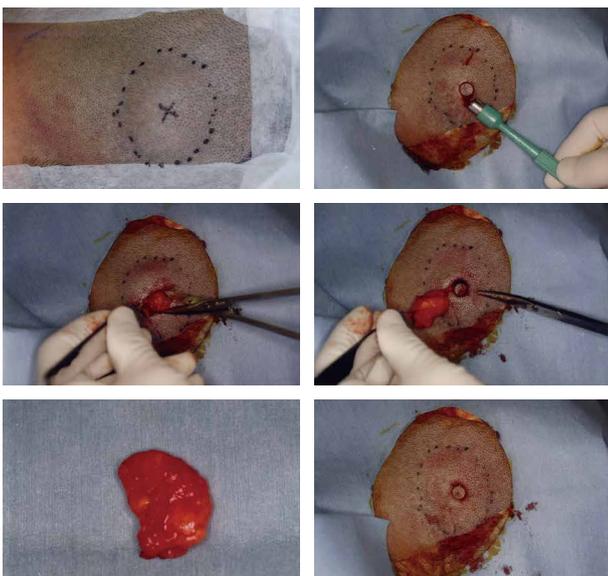


図5 脂肪腫に対する使用方法  
トレパン穴から皮膜を上手に剥がすこと。

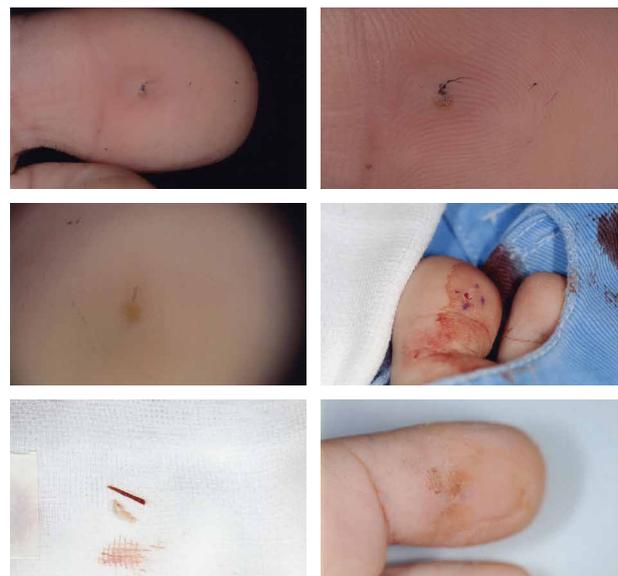


図6 異物混入時の使用方法  
垂直に棘が入っている場合には適した径を選択すること。図は2.5mm径で完全摘出し、疼痛も極めて軽度で即歩行可能。

#### 参考文献

- 1) 前田 学 ほか: ロング型ディスポーザブル生検トレパン (KAI) の臨床応用とその使用方法について. 西日皮膚 62 : 783-7, 2000
- 2) 前田 学: ヘそぬき簡易手術法の応用. 皮膚科診療のコツと落とし穴 (編集: 西岡清) 4治療, 中山書店, pp.182-3, 東京, 2006
- 3) 前田 学 ほか: 亀頭部に発症したマダニ刺咬症の高齢男性例. 西日皮膚 65 : 38-40, 2003
- 4) 前田 学: トレパン (ディスポパンチ) を用いた爪甲下の腫瘍切除法. 皮膚病診療 32 : suppl 68, 2010